

◎万葉集卷二十・防人歌

①天平勝宝七歳乙未二月、相替りて筑紫に遣はさるる諸国の防人等の歌

遠江国	7首	／	18首
相模国	3首	／	8首
駿河国	10首	／	20首
上総国	13首	／	19首
常陸国	10首	／	17首
下野国	11首	／	18首
下総国	11首	／	22首
信濃国	3首	／	12首
<u>上野国</u>	<u>4首</u>	<u>／</u>	<u>12首</u>
武蔵国	12首	／	20首
84首／166首			

②昔年防人……………8首

③昔年相替防人………1首

合計 93首

◎万葉集卷十四（東歌）の配列

国名判明	雑歌 5	上総 1首 下総 1首 常陸 2首 信濃 1首	} 東海道 - 東山道
	相聞歌 76	遠江 2首 駿河 5首 伊豆 1首 相模 12首 武蔵 9首 上総 2首 下総 4首 常陸 10首 信濃 4首 <u>上野 22首</u> 下野 2首 陸奥 3首	} 東海道 } 東山道
	譬喩歌 90	遠江 1首 駿河 1首 相模 3首 <u>上野 3首</u> 陸奥 1首	} 東海道 } 東山道
国名不明 140	雑歌 相聞歌 防人歌 譬喩歌 挽歌	17首 112首 5首 5首 1首	

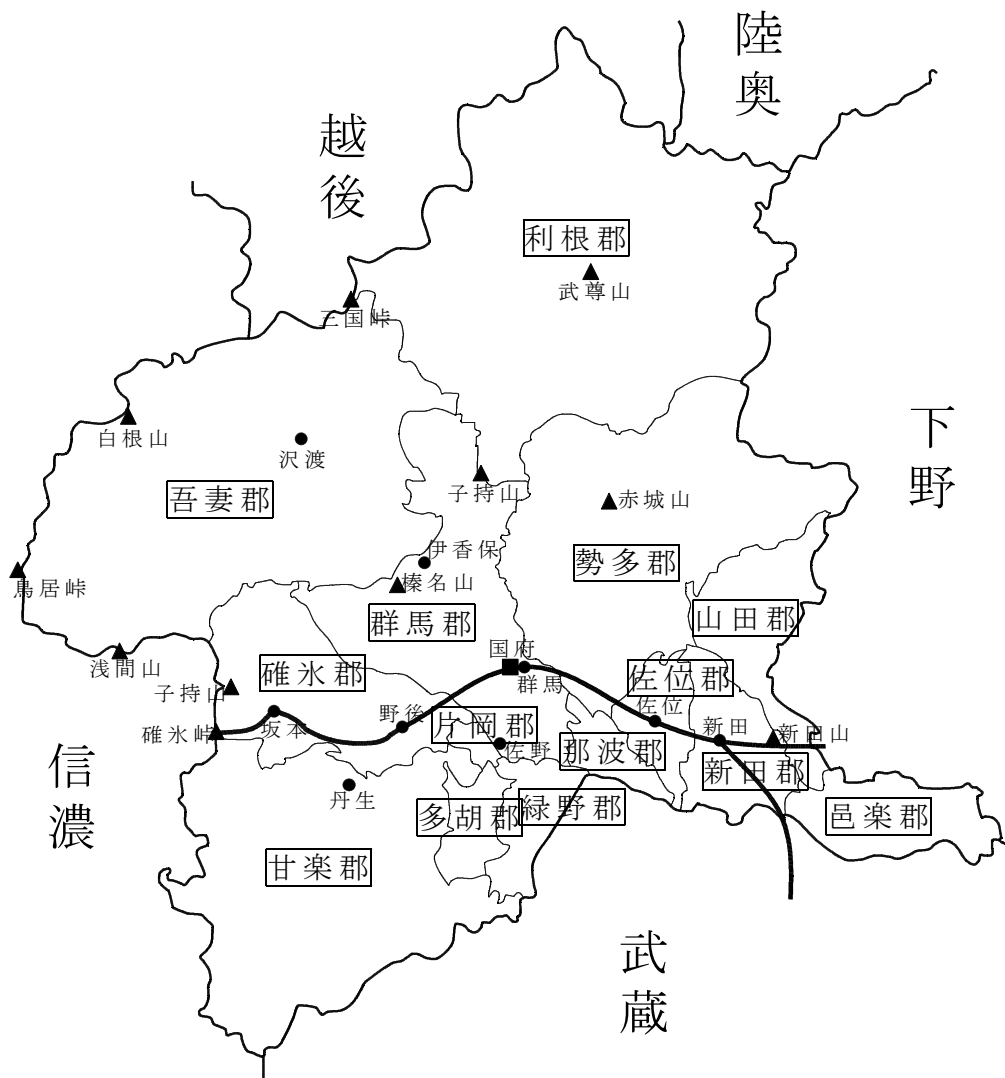
合計 230首

上野国の歌(1)

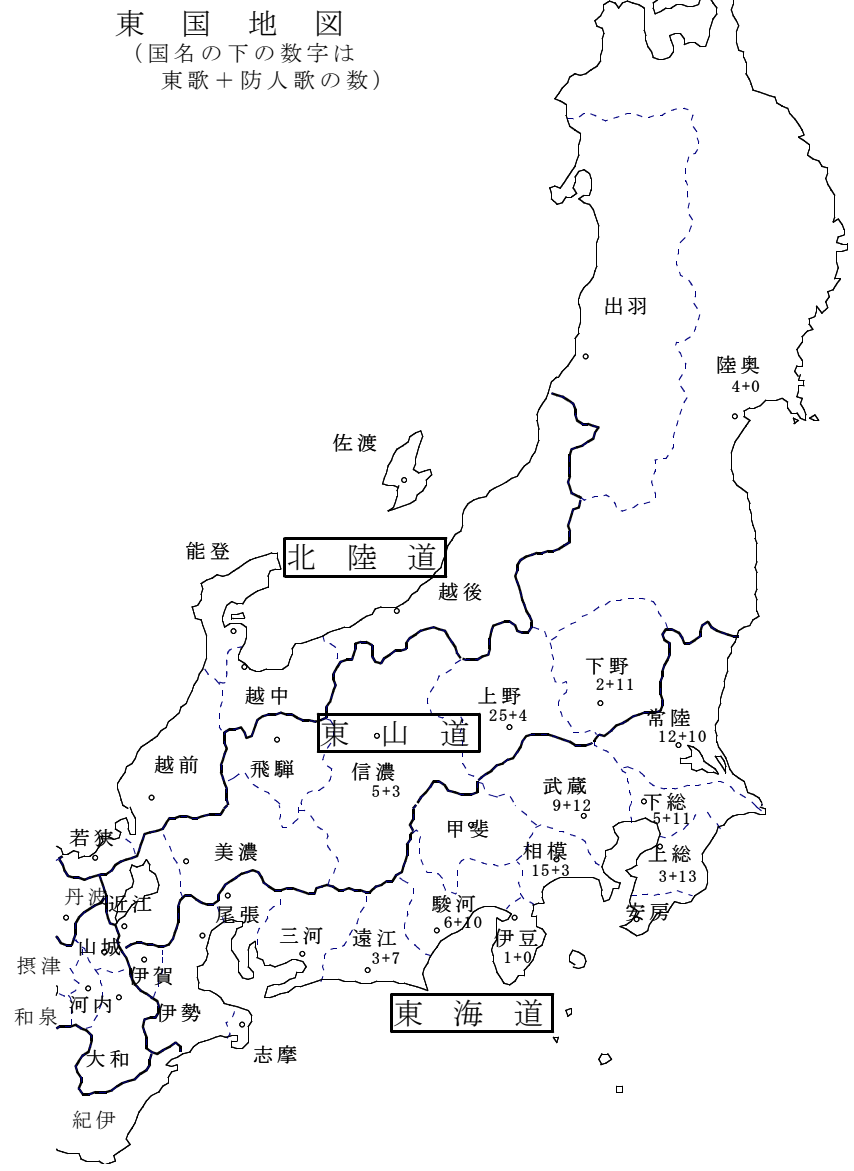
北川和秀

高崎市新町公民館 古典文学講座  
万葉集をよむく関東・信州の歌を中心に  
第1回

令和二年九月二日  
新町公民館



※郡界は寛文八年（1668）の上野国郷帳の村名に基づき推定した。



## 【碓氷】

① 日の暮に碓氷の山を越ゆる日は夫なのが袖もさやに振らしつ（三四〇二）上野東歌

② ひな曇り碓氷の坂を越えしだに妹が恋しく忘れぬかも（四四〇七）上野防人歌  
右の一首は、他田部子磐前のなり。

## 【丹生】

○ 真金吹く丹生の真朱の色に出て言はなくのみそ吾が恋ふらくは（三五六〇）未勘国東歌

### 《参考》

・ 白真砂御津の埴生の色に出でて言はなくのみそ吾が恋ふらくは（二七二五）

## 【多胡】

○ 吾が恋は現在もかなし草枕多胡の入野の将来もかなしも（三四〇三）上野東歌

### 《参考》

・ ……三郡の内三百戸を郡と成し、羊に給ひて、多胡郡と成す。 ……

（多胡碑 七一年）

昭和三十年まで存在した入野村は、明治二十二年の町村合併の折、小串・黒熊・深沢・石神・中島・小暮・馬庭・岩井・多比良の九ヶ村が合併して成立。村名は、東歌の「多胡の入野」が黒熊附近に比定されるという説を採用して命名された。

## 【佐野】

① 上毛野佐野の舟橋取り放し親は離くれど吾は離るがへ（三四二〇）上野東歌

### 《参考》

a ……佐野の三家と定め賜ひし健守命 ……（山上碑 六八一年）

b 上野国群馬郡下賛郷高田里の三家の子孫 ……（金井沢碑 七二六年）

c 橋は あさむづの橋。長柄の橋。 ……佐野の舟橋。 ……（枕草子六四）

× d 駒とめて袖うち払ふかげもなし佐野のわたりの雪の夕暮（新古今集六七一）定家

× e 苦しくも降り来る雨か三輪の崎佐野の渡りに家もあらずに（万葉集二六五）

f 駒留めて、袖うち払ふ蔭もなし、佐野のわたりの雪の夕暮れ、かやうに詠みしは大和路や、三輪が崎なる佐野のわたり。これは東路の、佐野のわたりの雪の暮れに、迷ひ疲れ給はんより、見苦しく候へど、ひと夜は泊まり給へや。（謡曲鉢木）

② 上毛野佐野の苗のむら苗に事は定めつ今はいかにせも（三四一八）上野東歌

## 【伊香保】

- ・万葉集の時代の「伊香保」は榛名山のこと。
- ・「いかほ」という語の構成は「いか（厳）＋ほ（穂・秀）」と考えられる。
- ・「ほ（穂・秀）」は、突き出ているもの、他からぬきんでているもの。例えば、稲穂、槍の穂、波の穂などの「穂」。「炎（ほのほ）」は「火の穂」の意。山の名には「高千穂」「穂高」など「ほ」の付くものがある。「いかほ」の「ほ」も同じ。
- ・「いか（厳）」は「内部の力が充実していて、その力が外形に角張って見えている状態」（『古典古語辞典』の「いかづち【雷】」の項）を表す語で、「いかし（厳し）」「いかめし（厳めし）」「いかる（怒る）」「いかづち（雷）」などの「いか」も同じ。
- ・「いかほ」の「いか（厳）」は、この山のもつどのような性格を「いか（厳）」ととらえたのであろうか。

- ・山の姿
- ・雷の巣窟
- ・火山

①伊香保嶺に雷な鳴りそね吾が上には故はなけども子らによりてそ（三四二一）上野東歌

②伊香保風吹く日吹かぬ日ありと言へど吾が恋のみし時なかりけり（三四二二）上野東歌  
《参考》

a 韓亭能許の浦波立たぬ日はあれども家に恋ひぬ日はなし（三六七〇）

b 荒津の海潮干潮満ち時はあれどいづれの時か我が恋ひざらむ（三八九一）

③上毛野伊香保の嶺ろに降る雪の行き過ぎかてぬ妹が家のあたり（三四二三）上野東歌

## 《参考》

・わが屋戸の君松の木に降る雪の行きには行かじ待ちにし待たむ（一〇四一）